

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 1	理念・目的
------	-------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	S
		(3)学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	S
		(4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、連関性があるものになっていますか。	S
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	S
		(2)教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 学部(学科)の教育研究上の目的と育成する人間像は、大学の基本理念・使命・教育目的及び学部の教育研究上の目的と関連させる形で明確に設定している。これらは、大学HP(「情報公表」のページ)や『学生便覧』の更新・改定が行われる際に、学部の自己点検・評価委員(学科主任・主任補佐)がそのつど校正し、改定の必要性等を点検している [0101a] [0102b] [0101c]。また、現在進行中の文系学部再編整備充実の一環としての学部改革では、新たに教育研究上の目的等を策定しつつある[0101d]。
0102 学部(学科)の教育研究上の目的、および、育成する人間像は、大学HP上の「情報公表」のページや『学生便覧』(HPにもデジタルブックで公表)において広く社会に公表されており、これらの間では記述の齟齬はない。特に卒業後に

<p>目指す進路に関しては、各学科でいくつかのモデルを『学生便覧』内のCPの項に示してイメージしやすくしたり、学科によっては学科HPで具体的な出口像などの例を挙げてより詳しく説明している[0101a][0101b][0102a]。また、建物内に学部と各学科に関してこれらの情報を明記した掲示を行い、所属学生にも毎年クリアフォルダーの配布などによって周知している [0102b]。学科紹介パンフレット（紙版・HP上のデジタルブック）のレベルでは、高校生向けに概して噛み砕いた表現に置換していたりしているが、文言の齟齬の解消を指示された前回のピアレビュー以降に改定の機会があった学科については、極力公表されている正式な目的・人間像に近づけた [0102c]。なお2019年度より、大学の方針で学科紹介パンフレットは廃止されたため、デジタルブックの改定について検討する必要がある。</p>	
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0102	各学科で、育成する人物像（卒業後に目指す進路）によるモデルを『学生便覧』に提示[0101b]。
項目 No. 0102	学科によっては、学科HPでは具体的な出口像を例にあげてより詳しく説明 [0102a]。
<p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0102	学科紹介パンフレットの紙版は大学の方針で改訂版を作成しないことになったため、文言の齟齬の解消を指示された前回のピアレビュー以降に（残部多数につき）改定する機会を得られなかった学科は、残部がなくなるまでは多少の表現の齟齬があることになる。HP上のデジタルブック版は紙版をもとに作成しているため、改定ができなかった学科について今後どうするかを検討する必要がある [0102c]。
項目 No. 0101	今後の文系学部再編整備充実にもとない、現行の教育研究上の目的と育成する人間像をそのまま引き継ぐか否かを検討。
項目 No. 0102	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0101	文系学部再編整備充実に向けた学部学科内の検討の中で、新たな教育研究目的や育成人材像を検討している [0101d]。
0102	学科によっては、学科パンフレットの「教育研究上の目的」について、可能な限り大学HPの「情報公表」と表現を合わせるように修正した [0102c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0101	今後、学部・学科として、(他所からの指示によってではなく)定期的に自主的に点検するシステム（方法や基準）を検討する。
0102	学科紹介パンフレットの紙版をもとに作成しているHP上のデジタルブック版の教育研究上の目的・育成人間像の改訂を検討する。
0102	学科HP上の教育研究上の目的等の記述をより広く世界に公表するべく、できるだけ早期に多言語化する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	教育研究上の目的 人文学部 情報公表 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_humanities/	○
0101	b	2018年度・2019年度『学生便覧』（該当箇所 巻頭①及び③） 2018年度版： https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/binran_under_2018.pdf 2019年度版： https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/binran_under_2019.pdf	○
0101	c	2018年度・2019年度『学生便覧』原稿校正依頼文書	△
0101	d	コミュニケーション学科の後継新学科構想	○
0102	a	学科人材育成像（出口像） 英語英米文化学科・コミュニケーション学科・心理学科 英語英米文化学科： https://www3.chubu.ac.jp/english/hs_students/future/	○

		コミュニケーション学科 : https://www3.chubu.ac.jp/communications/cr/ 心理学科 : http://psy.isc.chubu.ac.jp/cgi-bin/makeframe.cgi?applicant3	
0102	b	人文学部教育理念・使命パネル・人文学部クリアファイル画像	○
0102	c	学科紹介パンフレット (教育研究上の目的・育成する人物像) (該当箇所 日本語日本文化学科 p. 3、英語英米文化学科 後表紙、コミュニケーション学科 pp. 1-2、歴史地理学科 頁番号なし) 日本語日本文化学科 : https://www2.chubu.ac.jp/digibook/japanese/html5.html#page=1 英語英米文化学科 : https://www3.chubu.ac.jp/english/pamphlet/ コミュニケーション学科 : https://www2.chubu.ac.jp/digibook/communications/html5.html#page=1 歴史地理学科 : https://www2.chubu.ac.jp/digibook/history/html5.html#page=1	○

提出区分 ... ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203	(4)「内部質保証推進委員会」の指揮の下で教育研究等諸活動について自己点検・評価を行い、向上を目指した持続的な活動により教育研究機関としての質保証に取り組んでいる。学部の自己点検・評価委員（主任会構成員に同じ）が作成した案を教授会で承認の上、内部質保証推進委員会に提出している [0203a][0203b][0203c]。
0203	(4) 学部の自己点検・評価結果に対し、ピアレビュー委員会による学内内部評価が実施されており、その報告書を基に各学科は改善すべき点を把握し、継続的に善処する努力をしている[0203d]。
0203	(4) 外部機関による評価は適切な機関が見つからず実施していないが、学部内の学科相互で自己点検・評価報告書をチェックし合うシステムを導入した[0203e]。
0203	(4) 全学的な制度ではあるが、個々の教員はFD活動の一環として年度始めに「教員活動重点目標」を設定し、年度末に「自己評価シート」による振り返りを行い、教育の質の向上と各々の資質向上に努めている。その自己評価を学科主任・学部長が点検して評価し、学部ポイント（全体の60%分）として点数化して、大学企画部高等教育推進課が運営する教育活動表彰制度に情報提供し、改善努力を奨励している[0203f][0203g][0203h]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	学部内の学科相互で自己点検・評価報告書をチェックし合うシステムを導入[0203e]。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0203	学部内・学内のピアレビュー受審以外の外部評価を受けるシステムがない。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

0203 外部評価を受けるために、ふさわしい機関についての調査は引き続き行うが、すぐに実行できる仕組みとして、自己点検・評価の報告書を提出する前に、各学科で互いの自己評価についてチェックし合うシステムを導入した[0203e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0203	定期的を受審できる適切な外部評価機関を探す。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	中部大学の自己点検・評価 情報公表 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/self_evaluation/	○
0203	b	中部大学自己点検・評価実施要項 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/self_evaluation/	○
0203	c	2018年第2回・2019年第2回人文学部教授会議事録：自己点検・評価シート提出前審議	○
0203	d	改善報告書 20190516・20200117	○
0203	e	2019年度1月人文学部主任会議事録（自己点検・評価シート学科相互チェックを決定）	○
0203	f	2019年度教育活動顕彰制度要項（該当箇所 p.11） https://www3.chubu.ac.jp/documents/university_education/content/3320/3320_76a23b3e716ae680de761eca543b86a9.pdf	○
0203	g	2019年度教育活動重点目標自己評価シート・自己申告書	○
0203	h	2019 優秀賞学部ポイント入力表	△

提出区分 ... ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1)課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	S
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1)学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	S
		(2)学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	S
		(3)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	S
		(4)学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な連関性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	S
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1)教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	S
		(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	S
		(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	S
		(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	S
		(5)授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	S

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育，高大接続への配慮，教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程，博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	S
		(7)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	現行の卒業認定・学位授与方針（DP）は、各学科の学科会議において検討した後、主任会（学部長・副学部長・学部長補佐・各学科主任・主任補佐により構成）にて学部内調整を経て、2017年人文学部定例教授会において承認され、大学HP上の「情報公表」のページや『学生便覧』で広く公表されており、毎年の便覧更新の際に学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している[0401a][0401b][0401c]。
0402	現行の教育課程の編成・実施方針（CP）は、各学科の学科会議において検討した後、主任会（学部長・副学部長・学部長補佐・各学科主任・主任補佐により構成）にて学部内調整を経て、2017年人文学部定例教授会において承認され、大学HP上の「情報公表」のページや『学生便覧』で広く公表されており、毎年の便覧更新の際に学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している[0401a][0401b][0401c]。
0402	特にコミュニケーション学科では、高校までの教科からは把握しにくい学問分野を扱うため、『学生便覧』で教育目的と具体的教育内容や科目群，教育課程のデザイン・コンセプトなどについて解説している[0402a]。
0402	DPとCPの整合性については、策定の際に一貫性を持たせることに特に留意して作成され、DPの4領域の能力に対応させる形でCPにおいても4つの教育内容が立てられ、体系的に教育課程が編成されて『学生便覧』に明記され、毎年の便覧改定の際には学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している[0401c]。
0402	特に歴史地理学科では、歴史学と地理学とを2本の軸として、現代の事象や問題を複合的に考察するという学科の特色を意識的に強調して教育課程を編成している[0402b]。
0403	教育課程の編成に当たっては、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する科目ナンバリングに留意して、CPに沿った体系的、かつ、学習内容の順序性を考慮した科目の配置を行っている[0403a]。また、カリキュラムマップによってその体系を明示し、教育課程の変更のつど、改定している[0403b]。
0403	特に英語英米文化学科では、学年進行に合わせて教材の難易度を高くするよう設定し、1・2年次は英語基礎力を高める科目を、3年次ではより実践的な科目（「通訳英語」や「翻訳英語」など）を配置している[0403c]。
0403	各学科の主任を中心とする教務委員が、翌年度の授業編成作業時に、各科目の「カリキュラムの中での位置付け」とDPに対応した「身につく基礎力」、単位制度の趣旨に沿った単位設定であること、選択/必修などの設定を確認している。これらの項目は、Webページ上のシラバス入力の際には固定されており、科目担当者は、これらに留意しつつ授業の「具体的達成目標」を設定している[0403d]。
0403	初年次教育，キャリア教育等は、全学共通教育科目として適切に配置されている[0403e]。
0403	特に心理学科では、公認心理師対応科目について、2017年9月に厚生労働省より通知された「公認心理師法附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるために必要な科目の取扱いについて」に基づき、厳密に授業科目の内容と方法を設定し、カリキュラムの体系化とカリキュラムマップの作成を行った[0403a][0403b][0403f]。
0403	学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の一環として、各学科で資格等の取得可能な教職課程，学芸員課程，司書課程，日本語教員養成講座の充実を図っている[0403g]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	

項目 No. 0402	コミュニケーション学科では、高校までの教科からは把握しにくい学問分野を扱うため、『学生便覧』で教育目的と具体的教育内容や科目群、教育課程のデザイン・コンセプトなどについて解説[0402a]。
項目 No. 0402	歴史地理学科では、歴史学と地理学とを 2 本の軸として、現代の事象や問題を複合的に考察するという学科の特色が強調された教育課程を編成[0402b]。
項目 No. 0403	英語英米文化学科では、学年進行に合わせて教材の難易度を高くするよう設定し、1・2 年次は英語基礎力を高める科目を、3 年次ではより実践的な科目（「通訳英語」や「翻訳英語」など）を配置 [0403c]。
項目 No. 0403	心理学科では、公認心理師対応カリキュラム改編に伴うカリキュラムの体系化とカリキュラムマップの作成を実施 [0403a] [0403b] [0403f]。
項目 No. 0403	全学科で資格課程（教職課程 / 学芸員課程 / 司書課程 / 日本語教員養成講座等）の充実を図る教育課程を編成[0403g]。
課題事項	≪箇条書き≫ *改善すべき点、向上すべき点
項目 No.	特になし

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0403	コミュニケーション学科では、授業内容の難易度の見直しを行い、ナンバリングに見合った開講期に科目を移動した[0403h]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0403	心理学科では、公認心理師対応導入に伴って改編したカリキュラムに対して、その成果と内容についての定期的な確認・点検のための方法を検討していく必要がある。
0403	今後の文系学部再編整備充実に合わせて、これまでの教育課程を体系的に評価し、より社会のニーズに適合した優れたものへと改善する機会とする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0401	a	2017 年度人文学部教授会議事録（第 10 回）	○
0401	b	人文学部 3 つのポリシー（全学科） 人文学部： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/ 日本語日本文化学科： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/ 英語英米文化学科： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/ コミュニケーション学科： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/ 心理学科： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/ 歴史地理学科： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/	○
0401	c	2018 年度・2019 年度『学生便覧』 pp.18～25	○
0402	a	コミュニケーション学科カリキュラムのデザイン・コンセプト『2019 年度学生便覧』 pp.160-161	○
0402	b	歴史地理学科 学科紹介パンフレット https://www2.chubu.ac.jp/digibook/history/html5.html#page=1	○
0403	a	2019 年度 科目ナンバリング表	○

0403	b	人文学部 5 学科のカリキュラムマップ 日本語日本文化学科 : https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum_map/41hj.pdf#page=1 英語英米文化学科 : https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum_map/42hf.pdf#page=1 コミュニケーション学科 : https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum_map/43hi.pdf#page=1 心理学科 : https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum_map/44hw.pdf#page=1 歴史地理学科 : https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum_map/45hh.pdf#page=1	○
0403	c	英語英米文化学科教育課程『学生便覧 2019』 pp.157-159	○
0403	d	シラバスサンプル「グローバル人文学」 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12042&value(crclumcd)=01040000002016	○
0403	e	『学生便覧 2019』各学科教育課程全学共通教育科目 p.147, p.155, p.166, p.175, p.183	○
0403	f	「公認心理師法附則第 2 条第 1 項第 1 号から第 4 号までに規定する公認心理師になるために必要な科目の取扱いについて」	○
0403	g	各学科取得可能資格『学生便覧 2019』 p.148, p.154, p.165, p.173, p.182	○
0403	h	教育課程変更例	○

提出区分 ... ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1)各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	S
		(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	S
		(4)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	S
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	S
		(2)既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	S
		(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4)卒業・修了要件を明確に定めていますか。	S
		(5)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	S
		(6)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	S
		(7)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	S
		(8)適切な学位授与を行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404	学部全体として各学期に履修登録単位数の上限を設けて『学生便覧』に明記し、毎年『学生便覧』改定時に、各学科の主任を中心とする教務委員が点検している [0404a]。
0404	シラバスには、「身につく基礎力」、「授業の趣旨（概要）」、「具体的達成目標」、事前・事後学修（準備や課題）を含む毎回の「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が明記されている[0404b][0404c]。また、第三者によるシラバス点検を実施し、授業主旨、授業計画（授業内容・事前事後の学修）、授業方法、評価方法などが DP・CP に基づく「カリキュラムの中での位置付け」と DP に対応した「身につく基礎力」などにふさわしいか否かを判断し、不備がある場合には科目担当者に修正を求めている[0404d][0404e]。
0404	授業内容とシラバスとの整合性の確保に関しては、学期末に実施される学生による「授業評価」アンケートの集計結果や自由記述、教務モニター制度の学生意見等から間接的に検証しているが、改善については科目担当者の裁量に任せられている [0404f]。特に心理学科では、公認心理師科目については日本心理学会における公認心理師標準カリキュラム等に則ってシラバスを作成し、公認心理師となるうえで必要な授業内容を網羅していることを厳密に確認している [0404g]。
0404	学生の主体的参加を促すために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れた教育方法を実践することを CP（「教育方法の」項目）に定めており、CP に沿った授業内容となっているかについては、シラバスの第三者点検により確認し、必要に応じて科目担当者に修正を求めている [0404h][0404i]。特に日本語日文化学科では、1 年次の「基礎演習」等の演習科目において、学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じている[0404j] また、コミュニケーション学科では、OJT 型の地域貢献活動ゼミ「文化情報デザイン・プロジェクト ABCD」を設置してアクティブラーニングを促進している [0404k]。また心理学科でも、特に実習演習科目では、心理学に関する実験や調査、心理学のテーマや論文についての発表およびディスカッションという授業形態をとっており、学生の主体的参加が必須の授業として、1～3 年次に渡って配置している [0404h] [0404i]。
0404	授業編成および管理運営に関して、全学共通教育科目などを中心に、授業形態や内容、必要設備に応じて受講者数の制限を設けている[0404l]。また、各学科では、授業形態や内容、受講者数の制限に関しては、大学 HP の「情報公表」にある「中部大学 授業の開講数と受講者数」や毎年の授業編成の際に教務支援課から提供される科目ごとの受講者数一覧を参考に、学科主任を中心とする各学科の教務委員が検討し、適正であることを確認している [0404m][0404n]。各学科とも、必修科目などでは複数クラスを設置し、少人数クラスにすることで全受講生に目が行き届くよう配慮している。英語英米文化学科では、CP に沿った授業内容で学生の英語力を向上させるために複数クラスを設定し、少人数クラスで授業を展開している[0404o]。コミュニケーション学科では、特に初年次教育の後継科目である「フレッシュマンセミナー」などで少人数クラスを心がけ、また、使用機材に台数制限のある「映像情報デザイン ABD」などでも少人数クラスを編成している[0404p]。心理学科においては、すべての演習・実習科目について複数の教員を配置することで、受講者をグループ分けし、少人数の授業となるように対応している [0404q]。コミュニケーション学科では、さらに学部共通科目では少人数によるアクティブな授業運営のために「ビジネススキル

アップAB」・「上級日本語表現」で複数クラス運営を行っている[0404r]。	
0404	履修指導ガイダンスに関しては、毎学期開始前のオリエンテーション内で行い、翌日には、履修に関する個別相談の時間を設けている[0404s]。さらに、コミュニケーション学科においては、上級生による「履修ピア」制度を設けて履修関係のアドバイスを行っている [0404t]。
0405	シラバスに掲げた「達成目標」に基づく「成績評価の方法」「成績評価の基準」に従って成績評価が実施されているかについては、概ね各教員の裁量によるが、成績評価に疑問がある場合、受講生が一定期間内に確認を願い出ることができる制度を設けている [0405a]。
0405	留学や編入学に伴う既修得単位の認定に関しては、中部大学学則第 10 条・第 11 条に明記されており、具体的な科目の認定については、各学科の主任を中心とする教務委員が必要に応じて協議し決定し、教務支援課に提案した上で、教授会で承認することで適正であることを確認している [0405b]。
0405	成績評価方法の客観性・厳格性に関しては、「成績評価の方法」「成績評価の基準」に対してシラバスの第三者点検を実施し、確認している [0404d] [0404e] [0404i] が、実際に客観的、かつ、厳格に成績評価が行われているかを組織的に確認しているわけではない。複数担当者による一部の学科の基幹必修科目などでは、担当者全員の成績を共有し、場合によってはクラス間の調整を行うなどして成績評価の客観性・厳格性を保っている[0405c][0405d] [0405f][0405g][0405h]。単独担当者の科目では、上述の「受講生による成績確認の願い出制度」と、『教育・研究活動に関する実態資料』に公表される各科目の成績分布状況 (S/A/B/C/E 評価の比率) 等により、問題が生じた場合に各学科の主任を中心とする教務委員などが確認している[0405 a][0405i]。
0405	卒業要件は、中部大学学則第 18 条、および DP に明記されており、学生に対しては、『学生便覧』でも示し、各学期前のオリエンテーション時や初年次教育科目「スタートアップセミナー」内で周知している [0405j] [0405k]。
0405	学位審査の客観性および厳格性を確保するために、学位論文審査基準は各学科の「卒業研究」のシラバスの「成績評価方法」「成績評価基準」に項目としては明記されている [0405l]。また、各学科でそれぞれ、「卒業論文執筆要項」「卒業論文規程」「卒業研究マニュアル」などに「卒業論文評価表」や「学位論文審査ルーブリック」・審査基準などを示し、副査制度による口頭試問により、客観的かつ厳正な評価を行うよう努めている[0405m] [0405n] [0405o] [0405p] [0405q][0405r] [0405s][0405t][0405u] [0405v] [0405w][0405x][0405y]。学位授与に関しては、最終的には卒業要件を満たしているかを厳格に精査した上で、人文学部教授会場で卒業判定の合意をとっている [0405z]。
0405	学位授与に係る責任体制、および、手続は、中部大学学位規程に示されている。また、学位授与に関しては、人文学部教授会において卒業認定がなされ、中部大学学位規程に則り卒業認定されたものに授与される [0405za]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	心理学科では、公認心理師科目については日本心理学会における公認心理師標準カリキュラム等に則ってシラバスを作成し、公認心理師となるうえで必要な授業内容を網羅していることを厳密に確認[0404g]。
項目 No. 0404	コミュニケーション学科では、OJT 型の地域貢献活動ゼミ「文化情報デザイン・プロジェクト ABCD」を設置してアクティブラーニングを促進 [0404k]
項目 No. 0404	心理学科では、特に実習演習科目では、心理学に関する実験や調査、心理学のテーマや論文についての発表およびディスカッションという授業形態をとっており、学生の主体的参加が必須の授業として、1～3 年次に渡って配置 [0404h] [0404i]。
項目 No. 0405	学位審査の客観性および厳格性を確保するために、人文学部では、「学位論文審査ルーブリック」・審査基準を定め、客観的かつ厳正な評価を行うよう努力[0405m]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0404	授業内容とシラバスとの整合性の確保に関しては、学期末に実施される学生による「授業評価」アンケートの集計結果や自由記述、教務モニター制度の学生意見等から間接的に検証しているが、改善については科目担当者の裁量に任せられている [0404f]。
項目 No.0405	成績評価方法の客観性・厳格性に関しては、単独担当者科目においては、実際に客観的かつ厳格に成績評価が行われているかを組織的に確認しているわけではない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

0405 全学科が学位論文審査における評価基準方法の詳細をルーブリック表の形で明文化・公表して客観性を確保するようにした[0405m]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No. 0404	シラバスと授業内容と整合性について、より直接的に検証できる方法を検討。
No. 0404	さらに学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容・方法を各学科で検討。
No.0405	成績評価実施状況に関する各教員の自己点検方法の検討。
No.0405	単独担当者の授業に関し、成績評価の客観性と厳格性を確保する方法について検討する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	『学生便覧 2019』履修上限単位数 p.146, p.153, p.164, p.172, p.181	○
0404	b	教務支援課発シラバス作成要領	○
0404	c	シラバスサンプルページ「グローバル人文学」 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12042&value(crclumcd)=0104000002016	○
0404	d	中部大学におけるシラバス第三者点検実施要綱	○
0404	e	コミュニケーション学科 シラバス第三者点検不備修正依頼メール例	○
0404	f	授業評価集計結果の公表 情報公表 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/class_evaluation/	△
0404	g	公認心理師大学カリキュラム 標準シラバス	○
0404	h	『学生便覧 2019』 pp.18～25	○
0404	i	心理学科 シラバス記載内容における第3者点検について（依頼）	○
0404	j	日本語日本文化学科「基礎演習」シラバス	○
0404	k	コミュニケーション学科プロジェクト科目説明『学生便覧 2019』 pp.161-162	○
0404	l	2019年度人文学部受講者人数制限科目一覧	○
0404	m	中部大学 授業の開講数と受講者数 [2018年度]	○
0404	n	2019年度春・秋学期開講クラス数・受講者数一覧	○
0404	o	英語英米文化学科複数クラス開講一覧	○
0404	p	コミュニケーション学科複数担当科目調査票・コミュニケーション学科複数開講クラス	○
0404	q	2019年度 Tora-net シラバス検索結果（心理演習・心理学実習） 大学 HP https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbskgr.do	○
0404	r	学部共通科目複数クラス開講科目	○
0404	s	2019年度春学期・秋学期履修相談一覧	○
0404	t	コミュニケーション学科オリエンテーション時の履修ピア依頼メールと返信例	○
0405	a	成績確認期間『学生部便』No.185・No.186	○
0405	b	中部大学学則第10条・第11条『学生便覧 2019』 p.391	○
0405	c	英語英米文化学科科目評価基準	○
0405	d	英語英米文化学科スタートアップセミナー共通課題	○
0405	e	コミュニケーション学科 2019年度スタートアップセミナー・テキスト p.2, p.6, p.7	○
0405	f	歴史地理学科スタートアップセミナー 成績表	○
0405	g	歴史地理学科 2019年度地域調査の基礎 成績表	○
0405	h	歴史地理学科 2019年度 卒論口頭試問案内	○
0405	i	『2018年度版教育・研究活動に関する実態資料』（2019年度版は未刊） pp.261-266,	△

		pp.280-285	
0405	j	中部大学学則第 18 条 『学生便覧 2019』 pp.393-394	○
0405	k	卒業要件 『学生便覧 2019』 p.147, p.154, p.164, p.173, p.182	○
0405	l	2019 年度卒業研究シラバス (全学科) https://toranet.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kOugicd)=12101&value(crclumcd)=01044100002016 https://toranet.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12883&value(crclumcd)=01044200002016 https://toranet.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12941&value(crclumcd)=01044300002016 https://toranet.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12990&value(crclumcd)=01044400002016 https://toranet.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=13047&value(crclumcd)=01044500002016	○
0405	m	卒業研究評価ルーブリック表 (全学科)	○
0405	n	日本語日本文化学科卒業論文執筆要項	○
0405	o	日本語日本文化学科卒業論文規程	○
0405	p	日本語日本文化学科卒業研究評価表	○
0405	q	英語英米文化学科主査副査一覧	○
0405	r	英語英米文化学科卒論執筆要項	○
0405	s	コミュニケーション学科 2019 年度卒業研究マニュアル	○
0405	t	コミュニケーション学科 2019 年度卒業研究口頭試験	○
0405	u	心理学科 2018 年度 心理学科第 4 回学科会議議事録	○
0405	v	心理学科卒業研究発表会開催の案内	○
0405	w	心理学科 2019 年度卒業研究判定会議議事録	○
0405	x	歴史地理学科 2019 年度 卒論口頭試問案内	○
0405	y	歴史地理学科 2019 年度 第 10 回学科会議議事録	○
0405	z	2019 年度人文学部第 11 回教授会 (卒業認定) 議事録	○
0405	aa	中部大学学位規程 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/5592/5592_7bb2f028a9eefce4d64bb5faabb0e201.pdf	○

提出区分 ... ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1)学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	S
		(2)成績分布，試験放棄（登録と受験の差），進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3)学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ループリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生，就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容，方法の適切性について，学位授与の方針（DP），教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき，定期的に自己点検・評価を行っていますか。また，その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	S
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し，その内容を，第三者が理解できるように，根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状，「何を」規定または実施していて，「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い，「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 (1) 学生の学習成果を測るために，GPA（Grade Point Average）制度を導入し，成果の確認及び学習指導に用いている [0406a]。
0406 (2) 学習成果に関する情報の把握と共有方法として，学生の出席状況，単位取得状況，各科目の成績，各学期の GPA 等が，中部大学教育支援ポータルサイト（Tora-Net portal）の「学修ポートフォリオ」に用意されており，指導教授は指導生の情報を常にチェックしている。また，進級状況は人文学部教授会において

て共有されている [0406b] [0406c]。さらに、成績分布と試験放棄（登録と受験の差）については、科目単位では、毎年刊行される『教育・研究活動に関する実態資料』に掲載される各科目のデータで検証することができるが、学部学科全体での分布や放棄率は把握していない [0406d]。

- 0406 (3) 3年に1度、学生の学修成果に関する状況について把握し、今後の教育内容を検討する資料とすることを主目的として「学修成果に関する調査」（2019年度に第3回、人文学部回答率41.8%）を実施し、成果の確認に努めている[0406e]。また、各学科で学習成果の集大成である卒業研究の評価方法について検討し、評価基準となるルーブリック等を作成して活用している [0406f]。英語英米文化学科では、TOEICを定期的実施することで、学生の学習成果を客観的に測定・把握・評価し、その結果を蓄積・分析して習熟度別クラス分けの資料としている [0406g]。卒業認定・学位授与方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価するための卒業生・就職先への意見聴取に関しては、学部設立20周年記念行事（2018年6月27日）にて、卒業生から「人文学部でよかった?!」というテーマで教育課程や学習成果に関する評価を得るなど局所的な調査は行っているが、包括的な調査には至っていない [0406h]。
- 0407 (1) 授業内容及び方法の適切性については、学生の授業評価アンケートに基づき、教員各自が点検・評価を行い、次年度以降の改善につなげている[0407a]。各学科とも、教育課程変更申請時期や授業編成時期には学科会議において『2018年度教育・研究等に関する実態資料』等を参考に、DP・CPに則した教育活動が実施されているかどうかを確認し、教育課程およびその内容、方法の適切性について適宜点検・評価を行い、必要に応じて改訂等を教務委員会に申請している[0407b][0407c]。また、適切な活用の別の例として、学習成果としてのGPAおよび単位取得率を用い、特に単位取得率の低い学生には、当該学期末から翌学期始めにかけて面談を行って面談記録を残すなど、個別指導に活用している [0407d]。
- 0407 (2) 人文学部主任会で作成する「学部等重点事業計画」の「1-1 教育課程の体系化による教育内容、教育方法の検討・実施・点検・改善」という項目で、1) 学科横断プログラム（「グローバル人文学」の運営、2) 図書館司書課程の運営、3) コミュニケーション学科に新教育課程導入、4) 心理学科の公認心理師資格課程導入、5) アクティブ・ラーニングとしてのフィールド・ラーニングの充実を目標として掲げている。これを受けて各学科会議で審議し、必要な動きを起こして目標達成に向けて努力している。その成果は、検証の上、2021年度「学部等重点事業計画」に2019年度の活動実績として記載することになる [0407e]。

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0406 (3)	各学科で学習成果の集大成である卒業研究の評価方法について検討し、評価基準となるルーブリック等を作成して活用[0406f]。
項目 No.0406 (3)	英語英米文化学科では、TOEICを定期的実施することで、学生の学習成果を客観的に測定・把握・評価し、その結果を蓄積・分析して習熟度別クラス分けに活用[0406g]。
項目 No.0406 (3)	卒業生から「人文学部でよかった?!」というテーマで教育課程や学習成果に関する評価をフィードバックとして活用 [0406h]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0406 (2)	成績分布と試験放棄については、科目単位では検証することができるが、学部学科全体での分布や放棄率は把握していない [0406d]。
項目 No.0406 (3)	学習成果を適切に把握および評価するための卒業生・就職先への意見聴取に関しては、単発的なフィードバックは収集しているものの、包括的な調査には至っていない [0406h]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0406 (3)	学部設立20周年記念行事（2018年6月27日）に於いて、卒業生から「人文学部でよかった?!」というテーマで教育課程や学習成果に関する評価を得た [0406h]。
0406 (3)	2018年度自己点検・評価へのピアレビューでの指摘を受け、各学科で学習成果の集大成である卒業研究の評価方法について検討し、評価基準となるルーブリック等を作成した [0406f]。

0407 (2) 大学上層部より、学科毎の「専門分化」(蛸壺化)を指摘されたことを受け、2023年度の文系学部改革に向けてWGを設置し、「プロジェクト科目」(学科を超えて教員がプロジェクトを立てて学生を募集し、課題を解決するOJT型科目、週2回計4単位)の導入を検討中である[0407f]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
No.0406 (3)	コミュニケーション学科では、2016年度に導入した新教育課程が2019年度末で完成を迎える。就職先・進学先等を基に新教育課程導入による効果を検証し、2023年度の学部改革による新教育課程の構想に反映させる予定。
No.0406 (3)	より体系的に授業評価結果を検証し、また『教育・研究活動に関する実態資料』により各授業の履修状況、履修生の成績(含脱落率)、さらに、キャリア支援課や同窓会等の支援を得ての卒業生の追跡調査等も含む包括的な客観的データをもとに点検する評価システムを構築する。
No.0407 (2)	日本語日本文化学科では、授業方法や評価方法について、教員間での情報交換の場を増やすため、FD会議を年2回から4回に増やす予定。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0406	a	GPA 制度『学生便覧2019』pp.4-5	○
0406	b	学修ポートフォリオ学生情報サンプル Tora-Net portal 大学 HP https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/top.do	○
0406	c	2019年度 人文学部第12回教授会議事録	○
0406	d	『2018年度版教育・研究活動に関する実態資料』(2019年度版は未刊) pp.261-266, pp.280-285	△
0406	e	学修成果に関する調査2019回答依頼	○
0406	f	卒業研究評価ルーブリック表(全学科)	○
0406	g	英語英米文化学科 TOEIC 得点分布	○
0406	h	「人文学部でよかった?!」『Antenna』No.42 pp.2-3	○
0407	a	授業評価集計結果の公表 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/class_evaluation/	△
0407	b	『2018年度教育・研究等に関する実態資料』pp.261-266, 280-285	△
0407	c	2018・2019年度教育課程変更	○
0407	d	取得単位数の少ない学生の保証人への通知(依頼)	○
0407	e	2019年度学部等重点事業計画	○
0407	f	文系学部再編整備充実による学部横断プロジェクト科目構想	○

提出区分 ... ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	S
		(2)明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	S
		(3)社会に対し公表していますか。	S
		(4)下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP)の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	S
0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1)入学者受入れの方針(AP)と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2)入学者受入れの方針(AP)に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP)と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3)入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	S
		(4)公正な入学者選抜を実施していますか。	S
		(5)入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	S

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1)入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1)学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	A
		(2)自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501 (1)	卒業認定・学位授与の方針 (DP) および教育課程編成の方針 (CP) に定める教育を受けるために必要な「求める人間像」を学部 (学科) において入学者受入れの方針 (AP) で設定し、受入方針として規定している[0501a]。
0501 (2)	入試要項では大学 HP 上の「情報公開」のページの AP を参照するように記述されているため、記述に齟齬はない [0501b]。心理学科では、学科紹介パンフレットの内容を公表されている DP, CP, AP と完全に一致させるべく検討を行い、修正を決議した [0501c]。
0501 (3)	AP は、大学 HP 上の「情報公開」のページで広く社会に公表している [0501a]。
0501 (4)	AP は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の学生像、および、判定方法を踏まえたものになっている [0501a][0501d]。
0502 (1)	受入れ方針は、入試種別ごとに求める人間像が明記され、試験形態と対応しており、入学センター会議からの依頼により、定期的に点検することが求められる [0501a][0502a][0502b]。
0502 (2)	概ね、CP に定める教育を受けるために必要な能力を判定できる試験方法をとっている [0501a][0502a]。また、入学者選抜において透明性を確保するための措置の一つとして、過去問題を公表している [0501d]。なお、AO ポートフォリオ入試 (現ポートフォリオ入試) については、一部で基礎学力不足の者も見受けられるため、今後能力・適性等をより適切に測る選抜方法を継続的に検討する必要がある [0502c]。
0502 (3)	AO ポートフォリオ入試は、概ね各学科の主任・主任補佐等が主担当となり、原則としてほぼ全員参加で運営されている [0502d]。また、その他の入試においては、大学の入試・選抜委員会の場で判定結果の原案が示された後、各学科の主任・主任補佐が学部の入試・選抜委員会にてその原案の検討を行い、調整を図っているため、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備がなされている [0502d]。
0502 (4)	AO ポートフォリオ入試は、特に CP に定める教育を受けるために必要な「求める人間像」に合致しているかに留意して、学科全体、あるいは、担当者全員の合議により公正に選抜している [0502f][0502g]。また、その他の入試においては、試験形態により、試験・面接得点、申し合わせに従った書類評価点の合計点数順に受験者を並べ、上位者から合格者枠の人数までを合格としているため、極めて公正な入学者選抜を実施していると言える [0502h]。

0502 (5) 出願資格に障がいの有無や出自などは設けておらず、全ての受験者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していると言える[0501b]。	
0503 (1) 定員に対する入学者数比率／編入学生数比率、収容定員に対する在籍学生数比率、収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応は、入試における合格者数、および、退学者等の抑制努力により、極力調整している[0503a][0503b][0403c]。指定校推薦入試に関しては、より適切な人材を確保できるよう、年度初めに推薦基準の見直しを各学科会議で行っている [0502b]。学科／学年によっては、定員超過／定員割れなどがあるが、これは主に入学者数の違いによるものである。学部全体では概ね許容範囲内に収まっている[0503d]。心理学科では、公認心理師対応に伴う入学者数定員の是非を議論し適切な数を保っている [0503e]。	
0504 (1) 学部・学科主導で行われる AO ポートフォリオ入試の実施方法については、過去の入学生の入試時の状況とその後の学習成果等を資料として、各学科で必要に応じて検討しているが、その他の入試種では根拠資料に基づいて定期的に検証するには至っていないため、包括的な分析による見直しの時期に来ている [0502f]。	
0504 (2) いずれの学科でも、学科会議で選出した学生募集・広報担当者 2 名（英語英米文化学科は 3 名）、AO ポートフォリオ入試担当者 1 名を中心に、学科の入学者受入れの方針（AP）に基づき、学生募集および入学者選抜を公正かつ適切に実施し、実績に基づいて翌年度の見直し材料としている[0502d]。また、人文学部主任会で作成する「学部等重点事業計画」の「2-1 志願者の量的確保と入学者の質的充実」の項目で、入学センターと連携した広報活動の実施・点検・改善、学部学科のアピールポイントの点検・改善、学部独自の学生募集活動（オープンキャンパスイベントガイド[0504a]・ニュースレターの作成[0504b]・送付、オープンキャンパスのスタンプラリー等）の実施・点検・改善、併設校懇談会（進学生徒／出身学生の情報共有 [0504c]、女子生徒の進学奨励イベント[0504d]）、AO ポートフォリオ入試方法の点検・改善、同窓生推薦入試導入、定員確保、質的充実に向けての指定校と推薦基準の見直し（英語英米文化科で 2 件の基準引き上げ）、女子生徒の志願者数拡大（目標値：45%以上）などの目標を掲げている。されに、これを受けて各学科は学科会議で審議し、必要な動きを起こして目標達成に向けて努力している。その成果は、検証の上、2021 年度「学部等重点事業計画」に 2019 年度の活動実績として記載することになる[0504e]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0501 (3)	学部学科の特色と求める人物像を社会に広く発信し、より適切な人材を確保するため、5 学科が協力して代表的なゼミや、在校生の活躍、特徴的な授業などを紹介するニュースレターを年 4 回作成し、入学センターへの接触者に送付[0504b]。
項目 No.0503 (1)	心理学科では、公認心理師対応に伴う入学者数定員の是非を議論し適切な数を保持 [0503e]。
項目 No.0504 (2)	併設校（中部大学第一高等学校）での女子生徒の大学進学率向上を目指して、女子生徒対象人文女子卒業生による特別授業を実施している[0504d]。また、中部大学第一高等学校と年 2 回の懇談会を催し、被推薦生徒と出身学生の情報を交換して、より適切な学科選びに役立てている[0504c]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	
項目 No. 0502 (2)	AO ポートフォリオ入試については、一部で基礎学力不足の者も見受けられるため、今後も能力・適性等をより適切に測る選抜方法を継続的に検討する必要がある[0502c]。
項目 No.	
項目 No.0503 (1)	学科によっては、収容定員に対する在籍学生数の未充足があるため、志願者を増やすためのさらなる努力が必要[0503a][0503b]。
項目 No.0504 (1)	AO ポートフォリオ入試以外の入試種では、根拠資料に基づいた定期的な検証するには至っていないため、包括的な分析による見直しの時期に来ている。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない, 前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0501 (2)	2018年度自己点検・評価のピアレビューでの指摘を受けて、人文学部長が、主任会を通じて各学科が求める人材、教育研究上の目的・教育課程等に関しては、大学案内・編入学案内・学科紹介パンフレット、学科ホームページで情報を提供しているかの点検を依頼した。教育課程の改訂・パンフレットの改訂等に際しては、大学HPの「情報公表」に公表されている3ポリシーと齟齬がないか確認している [0501e]。また、特に心理学科では、学科紹介パンフレットの内容を公表されているDP、CP、APと完全に一致させるべく検討を行い、修正を決議した [0501f]。
0501 (3)	学科が求める人物像について、オープンキャンパスや年4回発信するニュースレターで、分かりやすく詳細に説明して広く社会に公表している [0504b]。
0501 (4)	心理学科では、公認心理師課程の導入に伴い、ニュースレターでの心理学科からのメッセージや情報が、APに沿った受験生を確保するのに適切か否かを検討し、改善策を考案した [0501g][0501h]。
0502 (2)	併設校(中部第一高等学校)からの推薦入学者に関して、できる限り各学科の教育内容に合う生徒を推薦してもらうために、継続的に年2回の併設校懇談会を実施している。2019年度は、第2回を2020年3月16日に予定していたが、Covid-19の影響で中止となり、各学科の出身学生の近況をまとめたものを送付した [0502i]。
0503 (1)	入学センター主導のもとではあるが、指定校推薦の見直しを積極的に行うようになった [0502b]。
0504 (1)	2018年度自己点検・評価のピアレビューにおいて、学部内の入試・選抜委員会における選抜過程記録が残されていないと指摘されたのを受け、議事録を作成するようになった [0504f]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0501 (1)	コミュニケーション学科では、2016年度導入の新教育課程の完成年度を待って、卒業者の学修成果や進路を詳細に点検した上で、文系学部再編整備充実における新学科のAP策定の検討材料とする。
0502 (2)	ポートフォリオ入試における課題内容・質問事項、ポートフォリオに求める情報の適切性の検証を行う。
0503 (1)	併設校から恒常的に基礎学力の高い生徒(特に女子)を集める手段として、人文学部を卒業して社会で活躍している女性による講演会(1回目はすでに2018年5月実施)等を継続的に実施する。
0503 (1)	学科として、指定校推薦入試について、指定校のランク・本人の受験時の評定平均値等と入学者のその後の状況(GPA・退学率等)をより徹底して分析し、指定校の選定・推薦基準の目標値や望ましい入学者数を中長期的視野でもって検討し、CPに見合う入学者だけが入学するように改善する。
0504 (2)	日本語日本文化学科は、特に特技推薦入試合格者の日本語力不足という課題が解決されるまでは、合格者に入学準備のために日本語の基礎力養成問題を課す。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	人文学部3つのポリシー https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/	○
0501	b	2020年度『入試要項』 p.1 https://adm.chubu.ac.jp/news/2020yoko.pdf	○
0501	c	2019年度心理学科第1回学科会議議事録	○
0501	d	2019年度入試 過去問題ダウンロードサイト https://adm.chubu.ac.jp/entrance_exams/questions/2019/index.html	○

0501	e	2018年度人文学部主任会議事録（11月学部長報告）	○
0501	f	2018年度心理学科第7回学科会議議事録	○
0501	g	2018年度心理学科第1回学科会議議事録	○
0501	h	2018年度心理学科第2回学科会議議事録	○
0502	a	大学案内 2020 pp.171-188 https://www2.chubu.ac.jp/digibook/univ_guide/2020/book.pdf	○
0502	b	2019年度人文学部主任会議事録 4月・5月	○
0502	c	『2018年度版教育・研究活動に関する実態資料』（2019年度版は未刊） pp.99-105	△
0502	d	学部内各種委員等名簿（AO入試担当者）	○
0502	e	入学試験日程（諸会議を含む）2019・2020.	○
0502	f	AOポートフォリオ入試要項	○
0502	g	AOポートフォリオ入試配点基準・特記事項	○
0502	h	2020年度入試・選抜委員会資料	△
0502	i	第中部大学第一高等学校出身者近況（全学科分）	△
0503	a	在籍者数（学部） [2019年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-02.pdf#page=1	○
0503	b	中部大学入学試験結果（学部） [2019年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2-01.pdf#page=1	○
0503	c	退学・除籍者数（学部） [2018年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/3-07.pdf#page=1	○
0503	d	中部大学入学者数（2019年度） https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-01.pdf#page=1	○
0503	e	2018年度心理学科第10回学科会議議事録.	○
0504	a	2019夏のオープンキャンパス人文学部イベントガイド	○
0504	b	人文学部ニュースレター2019No.1-No.4	○
0504	c	中部大学第一高等学校との情報交換会 2018・2019	○
0504	d	中部大学第一高等学校女子生徒対象企画	○
0504	e	人文学部 2020年度以降における学部等重点事業計画	○
0504	f	人文学部選抜委員議事録 2018-2019年度	○

提出区分 ... ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	S
		(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3)学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	S
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	S
		(2)規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1)FD活動を組織的に実施していますか。	S
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	S
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	S
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
00602 (1) 大学設置基準の人数は満たしているが、学科により偏りが見られる[0602a]。コミュニケーション学科では2019年度末に2人の教授が定年退職し、2020年度9月で准教授1名、2020年度末で教授1名が退職する。課程維持に必要な教員数確保のため、2021年度に向けた人員補充が急務である[0602b][0602c]。
0602 (2) 学部全体では、概して教授の人数が多く、准教授・講師が少ない配置となっており、従って年齢構成的にも全体的に若手が少ない。また、男女比では、英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科で女性教員が少ない[0602b][0602c]。日本語日本文化学科では、明治期以降の文学を専門とする教員は1名のみで分野的な偏りがある[0602d]。英語英米文化学科では、国内外での博士号取得者や英語母語話者を含む教員による指導体制を整備している [0602e]。コミュニケーション学科では、学位課程の目的に即した教員の配置として、理論と実務の両方の分野の教員を配備できている [0602f]。なお、心理学科では、ST比が全学部平均 30.8 に対し 44.8（業務内容の少ない特任教授を含めた数値）であり、大学内でもかなり高い [0602g][0602i]。
0602 (3) 教養教育の運営体制は、人間力創成総合教育センターにおいて整備しており、全学共通教育科目の担当者の一部は人文学部に所属して学科の科目を担当する者もあり、逆に学科教員も一部の全学共通教育科目を担当している[0602m][0602n]。
0603 (1) 教員の募集・採用・昇格等に関する規程、および、手続きの流れについては「中部大学教員資格基準」、「中部大学教員資格基準に関する申合せ事項」、「中部大学における教員人事の進め方：教員力の組織的な整備充実に向けて」、および、「人文学部昇格基準申し合わせ」（内規）によって整備されているが、大学の人事計画、学部の内規による希望どおりに進まないことが多い [0603a, 0603b][0603c][0603d] 。
0603 (2) 大学の人事担当副学長等で構成するワーキング・グループで、学部（学科）からの採用人事や昇任人事等の願出に対して、規程等に従った教員人事が行われるよう調整している。コミュニケーション学科では、2023年度の学部改革に向けて、教育課程や各種ポリシーを検討中であり、加えて2019年度および2020年度に教員が数名退職するため、臨時学科会議を頻繁に開き、新教育課程立案と、課程を適切に運営するために必要な若手を中心とした「人員補充計画」を策定している[0603e]。心理学科では、公認心理師国家資格が取得可能なカリキュラムに対応するために必要かつ適切な教員組織について情報収集と議論を継続しており、学科会議において欠員と心理実習要員の教員補充の必要性を確認している。しかし、学部（学科）から必要に迫られた採用人事の希望や、「人文学部昇格基準申し合わせ」に基づく昇格人事を上げても、近年は採りあげられない場合が多い[0603f][0603g]。
0604 (1) 学部長と5学科のFD委員、人文学部事務長の7名で構成する人文学部FD委員会を設置し、FD活動を組織的かつ多面的に実施している [0604a]。
0604 (2) 前年度末に次年度の重点目標の設定を行って、全学のFD・SD委員会に提出し点検を受け、当該年度の翌年度始めに目標の達成度を振り返る活動報告書を同委員会に提出して点検を受け、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげている[0604b] [0604c]。
0605 (1) 毎年刊行される『教育・研究活動に関する実態資料』にて公表される個別研究者の研究活動の状況、教員組織の状況などから、教員組織の適切性が検証できる。『教育・研究活動に関する実態資料』の「I 教育活動」の「3.授業の開講状況」の「(4)③成績評価分布状況」から、各人の教員としての素養がある程度判断できる。また、「II 研究活動」の「1.著書・学術論文・研究発表の状況」からは、各人の研究者としての素養がある程度判断できる。さらに、「III 教員組織の状況」の「1.法令定員と教員組織」から法的な適切性は判断できる。また、「2. 大学教員の構成」から、年齢別、男女別、職名別教員構成や、他学部他学科に比しての相対的な状況などがわかり、教員組織の適切性が検証できる[0605a]。また、毎学期末に実施される「魅力ある授業づくり」授業評価アンケートの特に学生による自由記述から、授業運営やクラス運営の状況が把握でき、教員としての資質等が判断できる場合がある[0605b]。特に大きな問題を抱えていそうな場合は、学部長等が個別に話を聞くなどして改善のための方策と一緒に検討する場合もあるが、通常は、自由記述に対するコメント欄に見るとおり、担当者が自ら改善に努めている。
0605 (2) 各学科とも、授業評価・『教育・研究活動に関する実態資料』などの資料をもとに、学科会議において中長

<p>期的ビジョンをもって、教育課程の調整を行うとともに退職者の授業を担当し得る人材の新規採用人事や在籍教員の昇格人事を計画し、教育課程の運営にとって最適な教員組織になるよう常に点検している[0605a]。新規採用人事を検討する場合は、専門分野のほか、男女比、年齢構成を意識し、学科「学生にとってのロールモデルとしての教員」という視点も加味している[0605c][0605d]。しかし、人事関連の問題は経営サイドの事情にも関わるため、必ずしも教学サイドの努力だけでは改善できない。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.0602 (2)	英語英米文化学科では、日本だけでなく海外での博士号取得者を含む教員による指導体制を整備[0602e]。
項目 No.0602 (2)	コミュニケーション学科では、学位課程の目的に即した教員の配置として、理論と実務の両方の分野の教員を配備 [0602f]。
<p>課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No.0602 (1)	コミュニケーション学科では2019年度および2020年度に教員数名が退職するため、2021年度に向けた人員補充が急務である[0602c]。
項目 No.0602 (2)	英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科において、若手・女性教員の比率が低い[0602b]。
項目 No.0602 (2)	日本語日本文化学科では、明治期以降の文学を専門とする教員は1名のみで分野的な偏りがある[0602d]。
項目 No.	
項目 No.0602 (2)	心理学科では、ST比が全学部平均30.8に対し44.8(業務内容の少ない特任教授を含めた数値)であり、大学内でもかなり高い[0602i]。
項目 No.0602 (2)	「人文学部昇格基準申し合わせ」(内規)によって昇格基準が整備されているが、大学の人事計画、学部の内規による希望どおりに進まないことが多い[0603d]。
項目 No.0605 (2)	教員組織の適切性について点検・評価はしており、特定分野の欠員(日本語日本文化学科の国語学分野、心理学科の社会心理学・心理統計学・教育心理学分野)・男女比(心理学科・歴史地理学科では若手女性が少ない)・年齢構成/職位の偏り(心理学科以外は、講師・助教等の若手が少ない)等を把握してはいるものの、是正の必要性について大学上層部を説得できていない点が課題である[0602b]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0603 (2)	規程等に従った適切な教員人事により、心理学科では2018年度に3名(内1名急逝)、日本語日本文化学科では2019年度に1名、英語英米文化学科・コミュニケーション学科では、2020年度に各1名の新規採用の教員が赴任した[0605e][0605f][0605g]。
0602 (2)	コミュニケーション学科では、2023年度の学部改革に向けて、教育課程や各種ポリシーを検討中であり、加えて2019年度および2020年度に教員数名が退職するため、臨時学科会議を頻繁に開き、新教育課程立案と、課程を適切に運営するために必要な若手を中心とした「人員補充計画」を策定している[0603e]。
0602 (2)	心理学科では社会心理学分野、心理統計学分野、教育心理学分野等、公認心理師課程に対応するための教員組織の適切性確保を今後も学科会議で継続審議の上、引き続き大学に補充を要望する。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0602 (2)	英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科において、若手女性教員を採用できるよう人事関連担当者に働きかける。
0602 (2)	コミュニケーション学科では、学部改革に向け、新教育課程、およびそれを運営する教員組織に関して2020年度中に議論を終え、数名の退職者に伴う補充人事計画の承認を大学上層部より得ることで、新学

	科での教員組織の適切性を確保する。
0602 (2)	心理学科は、社会心理学・心理統計学・教育心理学の専任教員の採用に向けて人事関連担当者に働きかける。
0605 (2)	学部として、長期・安定的な人員を確保するために、4、5年先までの人事計画を作成する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	中部大学 法令定員と教員組織 [2019 年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-05.pdf#page=1	○
0602	b	中部大学 教員数 [2019 年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-06.pdf#page=1	○
0602	c	4月1日現在 人員年齢表	△
0602	d	日本語日本文化学科学科紹介パンフレット pp.7-8 https://www2.chubu.ac.jp/digibook/japanese/html5.html#page=9	○
0602	e	英語英米文化学科学科専任教員構成	○
0602	f	コミュニケーション学科紹介パンフレット p.5 https://www2.chubu.ac.jp/digibook/communications/html5.html#page=1	○
0602	g	心理学科専任教員一覧 (2019年4月1日現在)	○
0602	h	心理学の教育と研究を支える4本柱と土台	○
0602	i	2018年度心理学科2月28日臨時学科会議議事録	○
0602	j	2018年度心理学科3月14日臨時学科会議議事録	○
0602	k	2018年度心理学科3月23日臨時学科会議議事録	○
0602	l	教員当たりの学生数 [2019年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-07.pdf#page=1	○
0602	m	全学共通教育科目担当学科所属教員 2019	○
0602	n	学科専門科目を担当する学科外専任教員 2019 秋学期	○
0603	a	中部大学教員資格基準	○
0603	b	中部大学教員資格基準に関する申合せ事項	○
0603	c	中部大学における教員人事の進め方：教員力の組織的な整備充実に向けて	○
0603	d	人文学部昇格基準申し合わせ	△
0603	e	コミュニケーション学科 2019 年度臨時学科会議議事録	○
0603	f	2019 年度心理学科第 8 回学科会議議事録	○
0603	g	2019 年度心理学科第 10 回学科会議議事録	○
0604	a	2019 年度学部内委員一覧	○
0604	b	2020 年度 FD 活動推進計画書	○
0604	c	2019 年度 FD 活動評価点検報告書	○
0605	a	『2018 年度 教育・研究活動に関する実態資料』	△
0605	b	学生による授業評価 科目区分で検索 (2019 年度秋学期) https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/SEARCH200VIEW.do?from=JH401	△
0605	c	心理学科新規採用人事願い書 (発達心理学・社会心理学分野教員)	△
0605	d	コミュニケーション学科新規採用人事願い書 (社会学分野助教)	△
0605	e	『学園報』第 527 号 p.5, p.6 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/chubu_library/faculty_staff/publication/report/documents/gakuenhou_no527.pdf	○
0605	f	『学園報』第 538 号 p.5, p.8 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/chubu_library/faculty_staff/publication/report/documents/gakuenhou_no538.pdf	○

0605	g	『学園報』第 549 号 p.5. p.6 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/chubu_library/faculty_staff/publication/report/documents/gakuenhou_no549.pdf	○
------	---	--	---

提出区分 ... ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 7 学生支援

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育, 補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	S
		(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援	S
		(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施	S
		(6)インターンシップは十分に実施していますか。	S
		(8)学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援, 保健管理, スポーツおよび文化活動の強化	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。

- 0702 (2) 大学全体としては、学生の能力に応じて補習教育、補充教育などを学習支援室において行なっており、学習支援室に関しては、大学 HP 内に案内がある他、各学科のオリエンテーション時にパンフレットを配布するなどして存在を周知している[0702a][0702b]。またどの学科も基本的に1年次は初年次教育の少人数クラスを、また、3・4年次には少人数制の演習授業（ゼミ）を設置し、学生の能力・志向に応じたきめ細かな修学支援を実施し、これらゼミの指導教員が補習・補充教育など、学生の能力・志向に応じたきめ細かな修学支援を実施している[0702c]。また、人文学部では、指導・相談体制を強化するために、副指導教授制を導入している[0702d]。
- 0702 (2) 日本語日本文化学科では、入学直後に日本語のIRT診断テストを受けさせ、評価が高校2年生以下のレベルの学生を対象に授業支援システム（CoursePower）のテスト機能を活用して補習を行っている[0702e]。
- 0702 (2) 正課外教育としては、大学全体で独自の資格（地域活性化リーダー・地域創生メディエーター等）や課題発見・解決等を目指すチャレンジ・サイト活動、留学プログラム等を用意して、座学に留まらない豊かな体験を提供している[0702f][0702g][0702h][0702i]。学部内では、日本語日本文化学科が、学生の要望に対応した学生支援として、正課外教育で学生が原稿執筆から発行までを手がける雑誌『J-style』の発行を支援している。[0702j]。また、心理学科では、本学教員が行っている「学習教室きみいろ」に学生が参加し、経済的困難をかかえる中学生の学習支援を行なっている[0702k]。また、今後、学部教育改革によりプロジェクト科目を導入する際には、このような活動も1つのプロジェクトとして、学部全体から学生を募り、全学部体制で運営することが検討されている[0702l]。
- 0702 (2) 留学生、障がいのある学生等の多様な学生に対する修学支援は、大学全体としては、国際センター（留学生）や学生相談室・保健管理室（障がいのある学生）が行なっているが、学科においては主に指導教授が対応しており、大きな問題の場合は学科会議の議題として学科全体で対応している[0702i][0702l][0702m][0702n]。
- 0702 (2) 成績不振者については、中部大学教育支援ポータルサイト（Tora-Net Portal）で指導教授が日常的に指導生の状況把握に努めており、また、学期末に教務支援課より届く単位取得不足学生の一覧により指導対象学生を呼び出し、状況把握と指導を行い、後の指導教授等のために Web 上で報告書を作成して共有できるようにしている。合わせて、紙版で学科主任の点検を経て教務部長にも提出し、点検を受けている[0702o][0702p]。
- 0702 (2) 留年者については、単位取得不足学生として主に年度末から年度始めにおいて、指導教授が呼び出し指導を行って状況把握をするとともに、履修指導を行っている。休学者・退学希望者については、指導教授が面談して状況を把握した上で学長宛の意見書を作成し、学科主任・学部長の点検を受けた上で教務支援課を経て、教授会で審議している。人文学部では、脱落早期予防に活用すべく、独自に休学・退学理由の集計を行っている[0702q]。コミュニケーション学科では、早い時期にスタートアップセミナーと関連づけて新入生全員の面談を行い、状況を把握、学修ポートフォリオ上の面談記録を共有して問題点があれば早急に対応している[0702r]。心理学科では、学生の能力や公認心理師受験資格取得に必要な実習への参加等に鑑み、留年等防止のために、無理のない卒業研究のあり方について議論し、より適切な基準・方針の設定を図っている[0702s][0702t][0702u]。
- 0702 (4) 学生の相談については、全学的にオフィスパワーを設けて、主に指導教授が対応しているが、場合によっては副指導教授、学科主任、学部長も相談にのっている[0702v][0702d]。全学の対応としては、学生相談室が設置されている[0702m]。また、ハラスメント関連では、指導教授や学科主任に相談し、解決が難しい場合は学科会議の議題とする。また、初年次教育「スタートアップセミナー」の一環として、セクハラ防止講演会を開催している[0702w]。全学組織としては、相談窓口、相談委員、およびハラスメント対策委員会が対応する体制をとっている。学生相談室、ハラスメント相談窓口に関しては、オリエンテーション時に配布するパンフレット、および、大学 HP において啓発情報や対応の手順等を説明している[0702x][0702y]。心身の健康維持・増進については、全学組織として学生相談室、睡眠相談室、保健管理室、体育・文化センターが設置されており、特に学生相談室、睡眠相談室に関しては、オリエンテーション時に存在を周知している[0702m][0702n][0702z][0702za]。
- 0702 (4) 安全への取り組みとしては、大規模災害の発生時に学生・教職員の被災状況を迅速に把握するための「安否確認通報システム」が導入されている[0702zb]。また、中部大学防災対策協議会による『安全の手引き』や『安全必携・地震防災ハンドブック』が毎年改定されており、オリエンテーション時に配布・説明する他、大学 HP にもデジタルブックとして掲載されている[0702zc,0702zd]。以上のように、生活支援面において、安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等は適切に行われ、関連部署により定期的な改訂を通して点検されている。
- 0702 (4) 学生が安定した学生生活を送るための生活支援としての奨学金制度は各種整備されており、必要に応じて指導教授は推薦書を書くなどして奨学金取得の支援を行なっている[0702ze]。
- 0702 (5) キャリア支援に関しては、各学科のキャリア開発委員がキャリア支援課と連携し、進路選択に関わるガイダンス

<p>やキャリア支援講座等、各種キャリア・プログラムへの誘導を行ったり、4年生の進路状況調査を毎月実施して未内定者をキャリア支援課に繋いだりしている[0702zf]。また、学内企業説明会の際には、キャリア開発委員を中心に教員が名刺交換に出かけ、企業担当者に挨拶をして学生たちの売り込みを行なっている。英語英米文化学科では、年に1回、卒業生や内定獲得者から就職活動に関する話をしてもらい就職セミナーを開催している[0702zg]。コミュニケーション学科では、構成員総出で学内企業説明会での名刺交換を行っている[0702zh]。心理学科では、キャリア心理学担当の非常勤講師に依頼し、就活講座・相談会・フォローアップ面談などを頻繁に実施している[0702zi]。また、全学科を対象に、12月の卒業研究提出後に就職未内定者を正確に把握し、上述の非常勤講師による個別面談を数回実施し「最後の1人まで進路の面倒を見る」体制をつくっている[0702zj]。こうした支援体制の成果を示す数値として、2018年度にはコミュニケーション学科と心理学科が就職内定率100%を達成し、学部全体としても98.7%（全国文系大学平均97.4%）、2019年度には英語英米文化学科とコミュニケーション学科が100%を達成し、学部全体としても99.1%（前年度98.7%）となった[7020zk]。しかし、その一方で、キャリア支援課主導の各種調査は、概して指導教授から直接支援課や事務室に提出する仕組みのものが多いため、学科全体としての就活状況等を把握しにくく、教員間の協力体制が整いにくい現状がある[0702zl]。また、不就職者の抑制に向けた方策を各学科で引き続き検討する必要がある[0702zk]。</p> <p>0702 (6) インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップ AB」を設置しており、2019年度の人文学部の受講人数は41名であった[0702zm]。</p> <p>0702 (8) キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化については、全学の各担当部署が「厚生モニター」等の制度を通して学生の要望を取り入れつつ適切に行っている[7020zn]。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.0702 (2)	学部全体で、指導・相談体制を強化するための副指導教授制を導入 [0702d]。
項目 No.0702 (2)	日本語日本文化学科では、入学直後に日本語のIRT診断テストを実施、一定レベル以下の学生を対象にCoursePowerを活用して補習を実施 [0702e]。
項目 No.0702 (2)	日本語日本文化学科では、正課外教育として、学生が原稿執筆から発行までを手がける『J-style』という雑誌制作を支援 [0702j]。
項目 No.0702 (2)	心理学科では、本学教員主催の「学習教室きみいろ」に学生が参加し、経済的困難をかかえる中学生の学習支援を正課外教育として実施[0702k]。
項目 No.0702 (4)	コミュニケーション学科では、早い時期に新入生全員の面談を行い、学修ポートフォリオに面談記録を残して学科内で共有、問題点があれば早急に対応[0702r]。
項目 No.0702 (4)	心理学科では、留年防止のために、無理のない卒業研究のあり方について議論し、より適切な基準・方針を策定[0702s][0702t][0702u]。
項目 No.0702 (4)	初年次教育「スタートアップセミナー」の一環として、セクハラ防止講演会を開催 [0702w]。
項目 No.0702 (5)	英語英米文化学科では、活躍する卒業生や内定獲得者の話を聞く機会を設定[0702zg]。
項目 No.0702 (5)	コミュニケーション学科では、構成員総出で学内企業説明会での名刺交換を実施[0702zh]。
項目 No.0702 (5)	心理学科では、キャリア心理学の非常勤講師による就活講座・相談会・フォローアップ面談などを頻繁に実施 [0702zi]。
項目 No.0702 (5)	学部全体で、12月の卒業研究提出後に非常勤講師による個別面談を数回実施し「最後の1人まで進路の面倒を見る」体制を確立[0702zj]。
項目 No.0702 (5)	成果として、2018年度には2学科が就職内定率100%を達成、学部全体としても98.7%（全国文系大学平均97.4%）、2019年度にも2学科が100%を達成、学部全体としても99.1%（前年度98.7%） [7020zk]。
<p>課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0702 (5)	不就職者の抑制に向けた方策を検討する必要がある[0702zk]。
項目 No.0702(5)	学科全体としての就活状況等を把握しにくく、教員間の協力体制が整いにくい現状がある[0702zl]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない, 前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702 (2)	万全の指導体制をとるために、学部全体で副指導教授制度を導入した[0702d]。
0702 (2)	日本語日本文化学科では、入学直後に実施する日本語 IRT 診断テストと小論文の不合格者に対し、2018年度までは手書きで補習問題をさせていたが、2019年度は CoursePower のテスト機能を活用して補習問題をさせた[0702e]。
0702 (4)	歴史地理学科では、学生の生活に関する適切な支援に関して、特にハラスメント防止を中心課題として、安全で安定した学生生活を送るための体制づくりを引き続き実施し、複数教員によるゼミ運営を実施している[0702zo]。
0702 (5)	学部長裁量経費を利用して、学部全体で12月の卒業研究提出後にキャリアカウンセラーの非常勤講師による個別面談を数回実施し「最後の1人まで進路の面倒を見る」体制を確立し、成果を出している[0702zj]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0702 (5)	業者による提案などを受け、海外におけるインターンシップ・プログラムの開発も検討する。
0702 (5)	キャリア開発委員が個々のゼミにおける就職活動に関する情報の統括を担い学科で共有する。
0702 (5)	学部改革で今後導入予定のプロジェクト科目を通して教員の研究者としての側面を見せることで、進学という進路も選択肢として提示する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	学習支援室 キャンパスライフ 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/study_support_room/	○
0702	b	学習支援室案内パンフレット	○
0702	c	2019年度春・秋学期開講クラス数・受講者数一覧	○
0702	d	201905 主任会メモ (副指導教授)	○
0702	e	日本語日本文化学科 IRT 診断テスト	○
0702	f	地域活性化リーダー資格取得ガイド https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/	○
0702	g	地域創成メディエーター https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/	○
0702	h	チャレンジ・サイト 2019年度の採択プロジェクト一覧 https://www3.chubu.ac.jp/challenge_site/project2019/	○
0702	i	留学・国際交流 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/international_exchange/	○
0702	j	日本語日本文化学科学生機関誌 “J-style”	○
0702	k	学習教室「きみいろ」 http://kimihiro.na.coocan.jp/	○
0702	l	人文学部_プロジェクト科目構想 20190826	○
0702	m	学生相談室案内 学生相談室 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/student_counseling/about/	○
0702	n	保健管理室 健康増進センター 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/health_room/	○
0702	o	送付書類サンプル (取得単位数の少ない学生の「保証人宛通知	○

0702	p	指導報告書サンプル	○
0702	q	退学者の推移と理由_20200518	○
0702	r	新入生面談記録サンプル https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/chart/chrtmkt999gakselist.do	○
0702	s	人文学部(HW)0702g : 2019 年度心理学科第 9 回学科会議議事録	○
0702	t	人文学部(HW)0702h : 2019 年度心理学科 1 月 29 日卒業研究判定学科会議議事録	○
0702	u	人文学部(HW)0702i : 2019 年度心理学科 1 月 31 日臨時学科会議議事録	○
0702	v	指導教授制・P.S.H.・オフィスアワー キャンパスライフ 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/teacher/	○
0702	w	セクハラ講演会ポスター2018・2019	○
0702	x	ハラスメントの防止等に関する指針中部大学 https://www.chubu.ac.jp/current_students/warning/harrasment/index.html	○
0702	y	ハラスメントってどんなこと? https://www.chubu.ac.jp/current_students/warning/harrasment/documents/about.pdf	○
0702	z	睡眠相談室 健康増進センター 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/sleep_consultation/	○
0702	za	体育・文化センター_在学生・教職員向けご利用案内 中部大学 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/facility_guide/gymnasium/index.html	○
0702	zb	安否確認通報システム キャンパスライフ 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/safety_confirmation_report_system/	○
0702	zc	安全の手引き 2020 https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/current_students/property_department/students_safety_book.pdf	○
0702	zd	『安全必携・地震防災ハンドブック』 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/digibook/handbook/	○
0702	ze	奨学金制度 キャンパスライフ 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/student_life/money/scholarship/	○
0702	zf	4 年生就職活動状況調査票 (5 月学生アンケート)	○
0702	zg	英語英米文化学科就職セミナー案内	○
0702	zh	コミュニケーション学科学内企業説明会名刺交換担当日程表	○
0702	zi	2019 心理学科議事録 (第 1 回,第 2 回,4 回,6 回 7 回, 8 回)	○
0702	zj	2019 就職先未内定者対象緊急支援セミナー	○
0702	zk	進路状況 2020.3.31 付	○
0702	zl	就活状況調査依頼	○
0702	zm	2019 インターンシップ A・B 受講者数	○
0702	zn	自己点検評価書 2014 (厚生モニター制度) p.49 https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/6254/6254_85686328d32a04e41a46685701e863e1.pdf	○
0702	zo	歴史地理学科 2020 年度 3 年次「専門演習」第 1 次・第 2 次選考結果	○

提出区分 ... ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	S
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0802 (1) 日本語日本文化学科・コミュニケーション学科・歴史地理学科は、PC 設置（54 台）教室として 2514 講義室を共同利用・管理しており、機器は定期的に（6 年程度に 1 回程度）更新されており、2020 年 1 月の Windows 7 のサポート終了に伴い、2019 年度末に更新を終えた [0802a][0802b][8020c]。
0802 (1) 日本語日本文化学科では、25 号館 3 階の印刷室を歴史地理学科と共同で使用し、開架式の書庫に学科予算で定期購入の雑誌を保管している。また、25 号館 2 階の準備室は、学科の正課外教育の『J-style』の編集作業の他、教材資料、恵那研修・オープンキャンパスで使用する道具類の保管場所としても活用しているが、手狭になりつつある[0802d]。
0802 (1) 英語英米文化学科は、英語教育のためのソフトウェアをインストールした PC 設備のあるマルチメディアルームを授業および自習用活用しているが、大学による更新は停止されているため、2019 年度には学部長裁量経費と学科費を利用して設置端末の一部を更新し、設備の充実を図った [0802e] [0802f]。
0802 (1) コミュニケーション学科は、映像・音響情報デザイン等の授業に人文学部スタジオ施設の映像スタジオ、音響・編集スタジオを利用している。建物の構造や防音設備は近隣大学の同種の設備としては随一であるが、テレビスタジオ・音響スタジオの機器は老朽化している。2019 年は授業運営に支障が出たため、学科費で一部機器を購入した [0802g][0802h]。
0802 (1) 心理学科は、心理実験棟に十分な実験設備を有しており、コンピュータや測定機材が最新になるよう維持している。2020 年 1 月の Windows 7 のサポート終了に伴い、2019 年度末に更新を終えた[0802i] [0802j]。

0802 (1) 歴史地理学科は、製図室と資料室（複写室）を利用して重要な史料や地図を保管して教育・研究に有効に活用しているが、史料を読むためのマイクロフィルムリーダー、史料作成のための一眼レフやマイクロフィルムカメラ、保管キャビネット等がない上に、作業のためのスペースが不足しているため、2021年度重点事業計画の一環として、新規の資料室の設置について検討している[0802k]。	
0806 (1) 教育研究等環境の適切性については、各種設備・機器等の保守状況、稼働率などをエビデンスとして点検・評価している[0806a][0802f][0806b][0806c]。	
0806 (2) 各学科のIT委員が中心となり、人文学部学生のIT教育での2端末室の有用性を調査・検討し数年毎にまとめ、改善・向上に役立ててきている [0806d][0806e]。	
0806 (2) 人文学部主任会で作成する「学部等重点事業計画」の「1-2 情報機器を利用した教育の充実」という項目で、1) 2514, 282A 講義室の利用調査と更なる積極的利用の検討、2) マルチメディアルームの積極活用、3) 人文学部スタジオ施設の積極活用（他学部による積極利用、空き時間の利用促進、学部改革と関連づけてスタジオ施設のあり方を継続検討等）を年度重点目標として掲げている。これを受けて各学科会議で審議し、必要な動きを起こして目標達成に向けて努力している。その成果は、検証の上、2021年度「学部等重点事業計画」に2019年度の活動実績として記載することになる[0806f]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0802 (1)	人文学部の2つの端末室のPCを2020年1月のWindows7のサポート終了に合わせて総合情報センターと相談の上更新 [0802a][0802b][0802c][0802h][0802i]。
項目 No. 0802 (1)	英語英米文化学科では、マルチメディアルームを授業だけでなく自習用に学生に開放し、稼働率100%で活用[0802f]。
項目 No. 0802 (1)	人文学部スタジオ施設のテレビスタジオの構造や防音設備は、近隣大学の同種の設備の中ではかなり高レベルのものであり、高校生による見学も多い[0802h]。
項目 No.0806 (2)	各学科のIT委員が中心となり、人文学部学生のIT教育での2端末室の有用性を調査・検討し数年毎にまとめ、改善・向上に役立っている [0806d][0806e]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0802 (1)	日本語日本文化学科では、学科所蔵図書が増えすぎたため、保存・管理する設備の充実を図る必要がある[0802d]。
項目 No.0802 (1)	英語英米文化学科では、老朽化しているマルチメディア教室の端末を一部更新したが、全受講者に同一環境での授業を実施するために、残りの端末についても早急に更新する必要がある[0802e][0802f]。
項目 No.0802 (1)	2019年度より、スタジオ設備の管理が全学組織であるメディア教育センターから人文学部に移ったため、今後の教育研究等環境の適切性の点検・評価、改善・向上の仕組みを新たに構築し、老朽化しているテレビスタジオ・音響スタジオの機器について、学部改革の方向等とも合わせて検討する必要がある[0802g][0802h]。
項目 No.0802 (1)	歴史地理学科では、新規の資料室を設置する必要がある[0802k]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0802 (1) 英語英米文化学科では、整備充実のため、マルチメディア教室の端末の一部を最新機器に更新した [0802e]。	
0802 (1) コミュニケーション学科では、人文学部スタジオ施設の機材の老朽化を受け、教育課程の特徴を維持するために、学部長裁量経費と学科費を使って一部機材を購入して凌いだ [0802g]。	
0802 (1) 歴史地理学科では、教育・研究用の史料を新規に購入した。新規の資料室を求める声はあり、2019年度は「古文書実習室」の仮称を再検討した [0802k]。	
0806 (2) 「2020年度以降における学部等重点事業計画について」には、英語英米文化学科のマルチメディア教室の英語多目的学習施設化（English Plaza, Active Learning 教室）費用、人文学部スタジオ施設内の機器の更新、導入予定の学部共通プロジェクト科目の作業室化費用、心理学科の心理相談室の設置費用、歴史地理学科の史料撮影台	

等設備導入費用の予算計画を記した [0806f]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0806 (2)	日本語日本文化学科では、25 号館 2 階にある準備室の管理の問題を検討していく。
0806 (2)	予算折衝を通じて、英語英米文化学科のマルチメディアルームの未更新の PC の更新・人文学部スタジオ施設の機器の更新、歴史地理学科の製図室・資料室の整備を実現していく。
0806 (2)	人文学部主任会において、人文学部スタジオ施設の有効利用に関して議論し、2023 年度の学部改革までにリフォームされるよう、学部として各所に働きかける。また、今後のスタジオ利用に関する自己点検・評価・改善の仕組みを構築する。
0806 (2)	2019 年度末に発生した Covid-19 感染防止対策として、今後、窓のない 282A で行われる授業の座席配置や換気方法に代表されるような問題に対応した講義・演習等での感染予防対策について、大学としての安全で実行可能かつ明確な指針が教員に呈示される必要がある [0806g]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	人文学部端末リプレース第 1 回検討会議議事録	○
0802	b	2514 講義室クライアント設計書_20200330	○
0802	c	2514 各学科の導入希望ソフトウェア表	○
0802	d	日本語日本文化学科書庫配置図	○
0802	e	英語英米文化学科マルチメディア教室更新内容	○
0802	f	英語英米文化学科マルチメディア教室利用実績	○
0802	g	2019 人文学部スタジオ施設用物品 (コミュニケーション学科購入)	○
0802	h	人文学部スタジオ施設_機器一覧	○
0802	i	282A&2514PC1_15 以降使用予定・必要台数&スペック&ソフト	○
0802	j	282A&2514PC 最終スペック&価格表 (概算)	○
0802	k	2019 年度 歴史地理学科 第 4 回学科会議議事録	○
0806	a	2514 講義室・282A 実験室 PC 利用実績	○
0806	b	2019 年度人文学部スタジオ施設利用実績	○
0806	c	H31~35 年度中期予算計画調査票 (人文学部)	○
0806	d	中部大学教育研究 10 巻論文	○
0806	e	中部大学教育研究 16 巻論文	○
0806	f	人文学部_2020 年度以降における学部等重点事業計画	○
0806	g	心理学科 28 号館平面図	○

提出区分 ... ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2)社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	S
		(3)地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0902 (2) 人文学部は、他学部比べて生涯教育のオープンカレッジに開放している科目が多い（2019 年度春学期は全 99 科目中 47 科目、秋学期は 95 科目中 35 科目）ため、地域住民に対して多大な貢献をしており、授業評価等を通して常にそのフィードバックを得ている [0902a] [0902b]。
0902 (2) 教員個々の活動として、例えば、愛知県、名古屋市、春日井市などの教育委員会における文化財に関わる仕事や街づくり計画の仕事等を委嘱されている者が多数いる [0902c] [0902d]。
0902 (2) (3) 英語英米文化学科では、高校英語教員を対象とした英語教育セミナーを年 1 回開催し、アンケートにより参加者からフィードバックを得ている。また、岩手県立大学・オハイオ大学の教職員・学生とともに、岩手県での震災復興支援国際ボランティア活動「水ボラ」を行い、社会貢献・社会交流に携わるとともに、国際交流にも資する活動を持続し、メディアに取り上げられるなどして評価をえている [0902e][0902f] [0902g][0902h]。
0902 (2) コミュニケーション学科では、OJT による社会連携・社会貢献を前提としたプロジェクト科目（ゼミ相当）内で、春日井商工会議所と連携した企業の PR ビデオ制作・かすがいビジネスフォーラム 2019 出展協力・「まちゼミ」運営協力・高齢者向けスマホ教室開催、春日井市役所発行の『広報春日井』の折込記事制作、名古屋グランパスのホームスタジオ用の観戦マナービデオとデジタルサイネージコンテンツ制作、あい農パーク春日井（春日井ふれあい農業公園）のオブジェ制作・オープニング支援、小牧市こども未来館プロジェクトマップ制作、高蔵寺 NT 老人会と連携した Wikipediatown プロジェクト企画運営、稚内市における自律型移動ロボットによる地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築、恵那市飯地地区の地芝居アーカイブ制作など、数多くの地域貢献活動を展開している [0902i][0902j][0902k][0902l][0902m][0902n][0902o] [0902p][0902q][0902r]。こうした活動は、大学祭の研究発表展として、25 号館玄関ロビーにてポスター展示で紹介し（地元の来場者は 3 日間の合計でおおよそ 300 人）活動成果を世に問うている[0902s]。
0902 (2) 心理学科では、本学教員により 2011 年から主に心理学科の学生をスタッフとした「学習教室きみいろ」

<p>(春日井市委託事業)で経済的困難をかかえる中学生の学習支援が行なわれている [0902t][0902u]。 0902 (2) 歴史地理学科では、名古屋大学大学院人文学研究科主催「歴史文化大学フォーラム in 名古屋：地域史料保全のあり方を考える」を共催し、歴史文化資料の保存と継承に向けた災害対策の推進に貢献した[0902v]。また、学科会議において、各教員から、適宜、社会連携・社会貢献に関する活動、地域交流・国際交流事業への参加に関する提案がなされ、参加の有無を検討している。[0902w][0902x]。 0902 (3) 日本語日本文化学科は、本学の日本伝統文化推進プロジェクトと共催という形で、講演「日本舞踊の伝統と革新」や公演「講談と落語の世界」を開催し、大学周辺住民を中心とした地域交流に一役買った。しかし、学科としては社会連携・社会貢献に関する方針を設けていない[0902y][0902z][0902za]。 0902 (3) 心理学科においては、「学習教室きみいろ」を通して、各種世代との地域交流も果たしている[0902t][0902u]。 0902 (3) 2018年度には台湾の中国文化大学外国語文學院と、また2019年度には国立台湾大学文學院日本研究センターと部門間学術交流協定を結んだ[0902zb][0902zc]。これを受け、学生交流のレベルでは、2019年8月には中国文化大学外国語学部日本語文学科主催の夏期華語文化研修講座に7名の学生が参加し、また2019年11月には日本語教員養成講座の教育実習生として2名が台湾中国文化大学の日本語文学科で実習を行った[0902zd][0902ze]。研究者レベルでの交流としては、中国文化大学外国語文學院院長(当時)や台湾大学日本研究センター主任らが講演のために来学し[0902zf][0902zg]、本学部からも台湾大学主催で開催された第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会での発表のために研究者が渡台するなど、早速活発な交流を開始している[0902zh]。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0902 (2)	各地自治体などの市史編さん、文化財調査・保護や都市計画に関わる仕事を委嘱された教員多数[0902d]。
項目 No.0902 (2)	英語英米文化学科による高校英語教員対象英語教育セミナー実施、国際ボランティア活動を通じた岩手県の震災復興支援貢献[0902e][0902f][0902g][0902h]。
項目 No.0902 (2)	コミュニケーション学科によるプロジェクト科目内各種地域貢献活動[0902i][0902j][0902k][0902l][0902m][0902n][0902o] [0902p][0902q][0902r] [0902s]。
項目 No.0902 (2)	心理学科教員と学生による「学習教室きみいろ」が春日井市委託事業として認定[0902t][0902u]。
項目 No.0902 (2)	歴史地理学科は、「歴史文化大学フォーラム in 名古屋 地域史料保全のあり方を考える」を共催し、地域情報保全の災害対策推進に貢献[0902v]。
項目 No. 0902 (3)	日本語日本文化学科は、日本伝統文化推進プロジェクトとの共催イベントで、大学周辺住民を中心とした地域交流を展開[0902y][0902z]。
<p>課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0902 (2)	日本語日本文化学科は、学内イベントによる地域交流には貢献しているが、学科として社会連携・社会貢献に関する方針を設けていない。
項目 No. 0902 (2)	歴史地理学科は、2019年度は地域貢献活動としての講演会/シンポジウムを開催したが、開催は不定期である。今後、計画的に実施することを点検できる機会を設ける[0902w][0902x]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<<改善・向上の進捗状況>>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0902 (2)	日本語日本文化学科は、2019年度より始まった日本伝統文化推進プロジェクトとの共催イベントで、大学周辺住民を中心とした地域交流を展開[0902z][0902za]。
0902 (2)	英語英米文化学科の英語教育セミナーでは、中高での英語教育に貢献できるよう、大学教員・中高教員を講師として迎えた[0902e]。
0902 (2)	コミュニケーション学科では、新カリキュラムが完成年次を迎え、OJT型「文化情報デザイン・プロジェクト科目」が完成した。その結果、多数の社会連携及び社会貢献が可能となり、新聞に掲載されたり地元テレビ・ラジオ番組で紹介されたりした [0902i][0902j][0902k] [0902l][0902m][0902n][0902o][0902p][0902q][0902r] [0902s][0902t]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902 (2)	日本語日本文化学科では、学科として社会貢献・地域貢献の方策について検討する。
0902 (2)	コミュニケーション学科では、退職者の地域貢献事業も含め、今後、持続的に自治体等外部団体との連携活動を行う体制づくりを進め、引き続き耳目を集める社会連携・社会貢献を目指す。また、地域と連携しづらい研究テーマを持つ研究室に対して、連携先の開拓を進めるよう促す。
0902 (2)	歴史地理学科は、学科会議を通じて、外部団体等との共催によるシンポジウム等の実施状況・計画について定期的に確認し、参加者数を増やす努力をする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	中部大学_2019 春・秋_オープンカレッジ開講科目一覧	○
0902	b	授業評価集計結果の公表 情報公表 中部大学 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/SEARCH200VIEW.do?from=JH401	△
0902	c	2019 年度地域連携講座・詳細 エクステンション・公開講座 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/extension/openlecture/archive/2019/city_cooperation/city_cooperation_detail/	○
0902	d	人文学部構成員による地域連携活動（抜粋）	○
0902	e	英語英米文化学科英語教育セミナーチラシ	○
0902	f	英語英米文化学科震災復興支援活動予定	○
0902	g	震災ボランティア毎日新聞オンライン記事 2018.10.4 付 https://mainichi.jp/english/articles/20181004/p2a/00m/0na/028000c	○
0902	h	震災ボランティア毎日新聞オンライン記事 2018.10.9 付 https://mainichi.jp/english/articles/20181009/p2a/00m/0na/014000c	○
0902	i	中部経済新聞記事 2019.11.7 付 https://www.chukei-news.co.jp/news/2019/11/07/OK0001911070401_02/ かすがいビジネスフォーラム 2019 https://kasugai-business-forum.com/event/%e4%b8%ad%e9%83%a8%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e5%ad%a6%e7%94%9f%e3%81%95%e3%82%93%e3%81%a8%e5%87%ba%e5%b1%95%e4%bc%81%e6%a5%ad%e3%81%ae%e3%82%b3%e3%83%a9%e3%83%9c%e5%87%ba%e5%b1%95%e3%82%92%e5%ae%9f%e6%6%bd.html	○
0902	j	広報春日井 No.1644_春日井まちゼミ	○
0902	k	第 8 回春日井まちゼミ 2・019.11.1_中日新聞記事	○
0902	l	広報春日井 No.1672・No.1680_聖地巡礼折込コンテンツ	○
0902	m	高蔵寺ニュータウン未来展 https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/015/329/mirairpdf.pdf#search=%27%E9%AB%98%E8%94%B5%E5%AF%BA%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E5%BA%97%27	○
0902	n	Wikipediatown in 春日井_尻冷やし地蔵編・柏井八幡社編・小木田棒の手編チラシ	○
0902	o	中部大学 X 名古屋グランパス観戦マナー啓発動画プロジェクト https://www.youtube.com/watch?v=w_OfvkmemcQ	○
0902	p	中部大学 X 名古屋クグランパス_熱中症予防啓発デジタルサイネージ https://www.youtube.com/watch?v=uznbayKzO4Y	○
0902	q	中日新聞 2019.11.26_小牧子ども未来館協定・小牧市子ども未来館デジタルコンテンツ作成委託について http://www.city.komaki.aichi.jp/material/files/group/2/20191125kodomomiraikann.pdf#search=%27%E5%	○

		B0%8F%E7%89%A7%E3%81%93%E3%81%A9%E3%82%82%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E9%A4%A8+E4%B8%AD%E9%83%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%27	
0902	r	稚内プレス 2019.8.24 付 http://wakkanaipress.com/2019/08/24/40575 稚内プレス 2019.3.14 付 http://wakkanaipress.com/2019/03/14/37240	○
0902	s	56 回中部大学祭パンフレット_地域貢献プロジェクト発表展	○
0902	t	学習教室「きみいろ」 http://kimiuro.na.coocan.jp/	○
0902	u	春日井市 子ども・若者支援機関マップ第4版 (p.27) 春日井市 Web Page https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/413/R1shienkikanmap.pdf	○
0902	v	歴史文化大学フォーラム in 名古屋：地域史料保全のあり方を考える ポスター	○
0902	w	2019 年度 歴史地理学科 第 5 回学科会議議事録	○
0902	x	2019 年度 歴史地理学科 第 10 回学科会議議事録	○
0902	y	日本伝統文化推進プロジェクト：日本舞踊の伝統と革新チラシ	○
0902	z	日本伝統文化推進プロジェクト：講談と落語チラシ	○
0902	za	2019 年度日本伝統文化推進プロジェクト実施一覧	○
0902	zb	協定書（中国文化大学）	○
0902	zc	協定書（国立台湾大学）	○
0902	zd	2019 夏期華語文化研修（中国文化大学）	○
0902	ze	2019 日本語教育実習（中国文化大学）	○
0902	zf	講演会ポスター	○
0902	zg	講演会ポスター	○
0902	zh	第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会 プログラム	○

提出区分 ... ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 (2)	人文学部教授会規程に基づき、人文学部教授会を設置している。定例教授会は8月を除く毎月第3水曜日とし、全学組織からの学部長報告、教育課程の変更、学生異動等の審議の他、各種委員会からの報告、その他学部の情報共有および連携を図っている[1120a]。人文学部教授会は、持続的に業務内容の点検を行っており、議事録を作成して学部長承認後に電子メールにて構成員全員で共有し、承認を得ている [1120b]。
1120 (2)	人文学部教授会規程に基づき、人文学部主任会を設置している。人文学部主任会は、「人文学部主任会運営申し合わせ」に則り、学部長、副学部長、学部長補佐、学科主任、学科主任補佐、事務長で構成され、8月を除く毎月定例教授会の1週間前に開催され、教授会審議事項の事前確認および調整をはじめとして、教授会に関する事項を取り扱っている[1120a][1120c]。会議資料はデジタル化して議事とともに事前に配布し、ペーパーレス化を進めている。議事録は、学部長承認後に電子メールにて構成員全員で共有し、承認を得ている [1120d][1120e]。
1120 (2)	人文学部主任会運営申し合わせに基づき、人文学部自己点検・評価委員会（主任会と一体）、人文学部入学者選抜委員会、人文学部 FD 委員会、人文学部紀要編集委員会、人文学部中・高教職支援委員会が設けられ、それぞれの規程／申し合わせに則って必要に応じて開催されている[1120c][1120f]。各委員会の議事録は事務職員、または、書記役の教員が作成し、委員会構成員に送って承認を得ている[1120g]。
1120 (2)	各学科では、「学科会議運営申し合わせ」に則り、学科会議を8月を除く毎月最低1回（概ね第3水曜日に）開催し、人文学部主任会、その他委員会からの課題について報告・審議し、また構成員から個別に議題設定を募り、学科内の情報共有、および、連携を図っている[1120h]。突発的な問題が生じた場合は、臨時会議を開き、問題に対応している。日本語日本文化学科では、学科会議議事録の承認後、総合情報センター運営の SharePoint に設置した学科専用ファイルライブラリに議事録のファイルデータをアップロードして共有している [1120i][1120j]。英語英米文化学科では、月2回の割合で定例学科会議を開催している[1120k][1120l]。コミュニケーション学科では、会議資料を議題とともに事前にアップロードして配布し、また会議後一両日以内に書記が議事録を作成して電子メールで構成員に送信して承認を得ている [1120m][1120n][1120o]。心理学科では、議事録は議事録案の訂正をメーリングリストで行い修正・完成し

<p>た上で、最終版をメールおよびWebサーバに保存して共有している [1120p][1120q]。歴史地理学科では、会議後おおよそ 1 週間以内に学科主任補佐が議事録を作成し、構成員が確認する手続きをとっている [1120r][1120s]。</p> <p>1120 (2) 学科の管理運営組織は、人文学部内諸委員、および、学科内役割担当者で構成され、教員全員が学科の管理運営に携わるような組織となっている。学科によっては、管理運営組織の膠着を避けるために、人文学部内諸委員および学科内役割担当者の任期を決め(2年等)、円滑な管理運営を図っている [1120t]。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120 (2)	<p>人文学部主任会では、議事一覧と関連資料を事前にアップロードして閲覧可能な形にすることで、適切な準備できるようにし、資源の節約とともに時間の効率化推進 [1120d]。</p>
項目 No. 1120 (2)	<p>日本語日本文化学科では、総合情報センター運営の SharePoint に学科専用のファイルライブラリを設け、学科会議議事録等を共有[1120j]。</p>
項目 No. 1120 (2)	<p>英語英米文化学科は、月 2 回の割合で定例学科会議を開催して情報共有促進[1120k, 1120l]。</p>
項目 No. 1120 (2)	<p>コミュニケーション学科では、事前に学科会議資料をアップロードしてペーパーレス化に貢献 [1120o]。</p>
項目 No. 1120 (2)	<p>心理学科では、議事録の最終版を Web サーバに保存して、構成員間で学科の問題や対策等について円滑かつ十分な共通理解が行われることを促進[1120p][1120q]。</p>
項目 No. 1120 (2)	<p>歴史地理学科では、会議後おおよそ 1 週間以内に学科主任補佐が議事録を作成し、構成員が確認 [1120r] [1120s]。</p>
<p>課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 1120 (2)	<p>学部レベルの委員会と学科会議に関する規程/申し合わせは作成したが、学科内の管理運営組織に関わる内規はまだ作成されていない。</p>
項目 No. 1120 (2)	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果【留意点】等への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
1120 (2)	<p>2018 年度の自己点検・評価のピアレビューで指摘され、人文学部主任会運営申し合わせ・人文学部入学者選抜委員会・人文学部紀要編集委員会の規程を作成した[1120f]。</p>
1120 (2)	<p>2018 年度の自己点検・評価のピアレビューでの指摘を受け、人文学部主任会・人文学部入学者選抜委員会・人文学部紀要編集委員会の議事録を作成し、委員会構成員の承認を得る手順を確立した[1120g]。</p>
1120 (2)	<p>人文学部主任会とコミュニケーション学科会議は、会議資料のペーパーレス化を実行した[1120d][1120o]。</p>
1120 (2)	<p>日本語日本文化学科では、学科主任は、人文学部主任会の報告事項・審議事項に基づいて学科会議の議題を設定し、さらに各教員に議題の提供を求め、学科内における問題を事前に把握し、会議の円滑な運営を図るようになった。</p>
1120 (2)	<p>コミュニケーション学科では、前回自己点検・評価(詳細点検)のピアレビューでの指摘を受け、録音(＋全文議事録)から要約議事録に変更し、より決定事項を参照しやすく改善した[1120m][1120n]。</p>
1120 (2)	<p>歴史地理学科では、2017 年度までは、学科の教務について定期的に確認・点検をしていなかったが、学科会議運営申し合わせを作成して、学科会議の際に、学科の教務について確認・点検することを定めた。また、議事録作成について、報告事項・議題ともなるべく要点を具体的に記述するように注意を払う努力を続けている。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
1120 (2)	<p>今後、各学科で、学科内部の管理運営の役割について、任期や業務内容を明文化する。</p>
1120 (2)	<p>日本語日本文化学科では、学科の管理運営の役割について、業務内容を明文化し、また、学科会議開催の告知と、議事録送付のスピード化を図る。</p>

1120 (2)	コミュニケーション学科では、学科会議の議題に関する情報のデジタル化を徹底し、ペーパーレス化をさらに進める。また、都合の合わない構成員等のオンライン参加のシステムを導入するなど、合理化を進める。
----------	--

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学人文学部教授会規程	○
1120	b	人文学部教授会議事録 2018 年度・2019 年度	○
1120	c	人文学部主任会運営申し合わせ	○
1120	d	中部大学人文学部主任会資料登録サイト https://psycholcert.isc.chubu.ac.jp/ldap/mat/syuninkai/	△
1120	e	人文学部主任会議事録 2018 年度・2019 年度	○
1120	f	人文学部各種委員会規程・内規	○
1120	g	人文学部各種委員会議事録 2019 年度	○
1120	h	人文学部各学科会議運営申し合わせ	○
1120	i	2019 年度日本語日本文化学科 学科会議議事録	○
1120	j	日本語日本文化学科 SharePoint ファイルライブラリ https://chubu365isc.sharepoint.com/sites/hj/SitePages/ホーム.aspx	△
1120	k	英語英米文化学科 2018 年度第 1 回～第 17 回学科会議議事録	○
1120	l	英語英米文化学科 2019 年度第 1 回～第 16 回学科会議議事録	○
1120	m	コミュニケーション学科 2018 年度コ学科会議議事録	○
1120	n	コミュニケーション学科 2019 年度学科会議議事録	○
1120	o	コミュニケーション学科会議資料サイト http://wasuke.isc.chubu.ac.jp/hiwp49/	△
1120	p	2018 年度心理学科会議全議事録(1-11 回,臨時 3 回)	○
1120	q	2019 年度心理学科会議全議事録(1-11 回,臨時 4 回, 卒業判定 1 回)	○
1120	r	2018 年度 歴史地理学科 第 1～11 回学科会議議事録	○
1120	s	2019 年度 歴史地理学科 第 1～11 回学科会議議事録	○
1120	t	2018 年度・2019 年度人文学部内諸委員・担当者名簿	○

提出区分 ... ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管